

A P I を活用したフィンテックへの取組み ～T & I イノベーションセンターの活動～

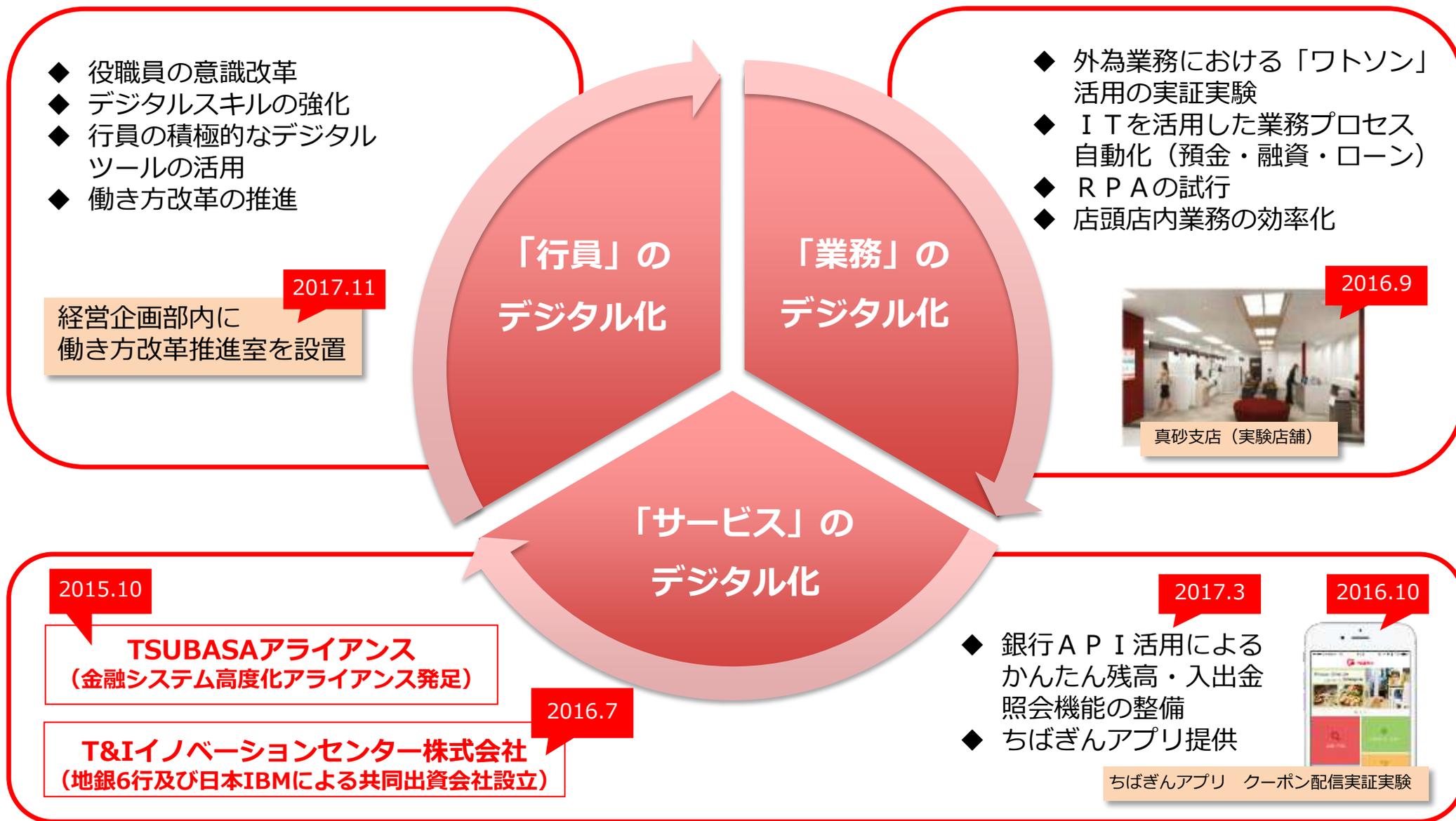
ちばぎん IR Day

2018年4月

株式会社 **千葉銀行**

(東証第1部 : 8331)

社会全体の「デジタル化」に対応し、2020年をターゲットに「デジタルバンキング」へのシフトを実現



会社概要



企業名	T&Iイノベーションセンター株式会社
代表者	代表取締役会長 森本 昌雄
所在地	東京都中央区日本橋室町1丁目5番5号 室町ちばぎん三井ビルディング15階
資本金	1億円
株主構成	千葉銀行40%、第四銀行10%、中国銀行10% 伊予銀行10%、東邦銀行10%、北洋銀行10%、日本アイ・ビー・エム10%
設立日	2016年7月1日
事業内容	フィンテックの調査・研究、フィンテックを活用した金融サービスの企画・開発等

沿革

2015年10月	TSUBASA金融システム高度化アライアンス発足 (加盟行：千葉銀行、第四銀行、中国銀行)
2016年3月	TSUBASA金融システム高度化アライアンスに3行が追加加盟 (加盟行：千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行)
2016年7月	TSUBASA金融システム高度化アライアンス加盟6行と日本アイ・ビー・エムの共同出資で会社設立

フィンテックに関する調査・研究



TSUBASAアライアンス



フィンテックを活用した金融サービスの
企画・開発・販売業務



銀行ニーズの実現



TSUBASAアライアンス

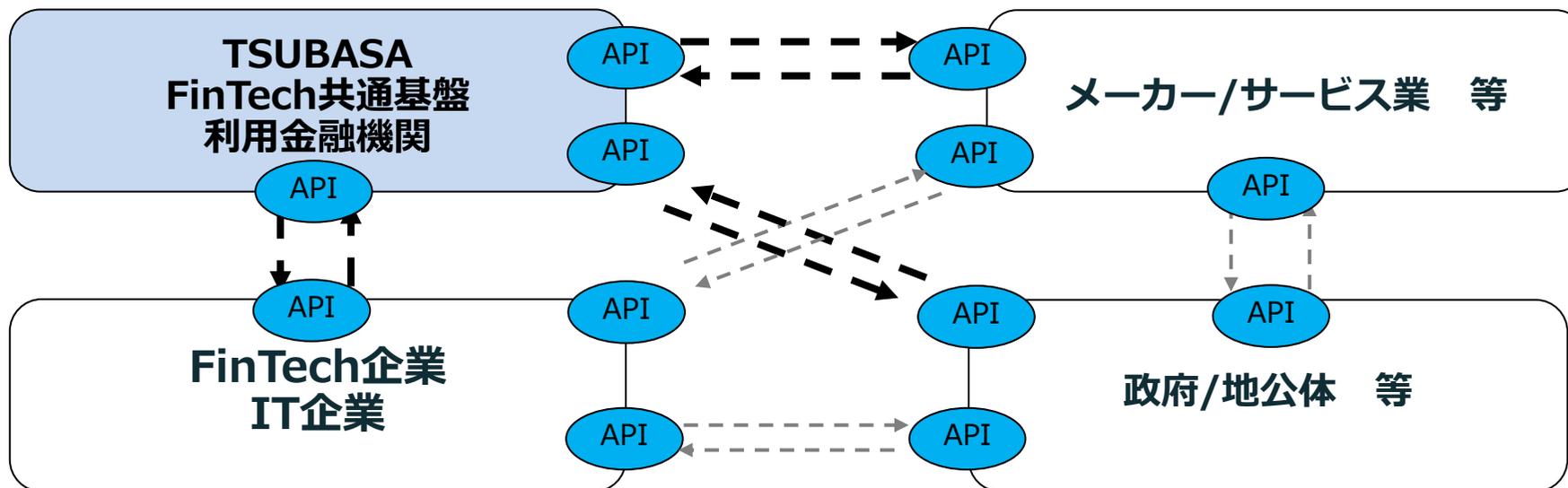


オープンAPI対応によりオープンイノベーションを促進

- フィンテック等の急速な技術進展に伴い、顧客利便性や顧客満足度向上等を目的として、他社・異業種サービスとの連携により付加価値を見出す動きが積極化。
- 銀行が「外部企業と連携し自行サービスを提供」する場合または「外部企業から銀行保有データの連携」を求められる場合には、セキュリティを確保したうえで、勘定系システムと連携するインターフェースが必要。



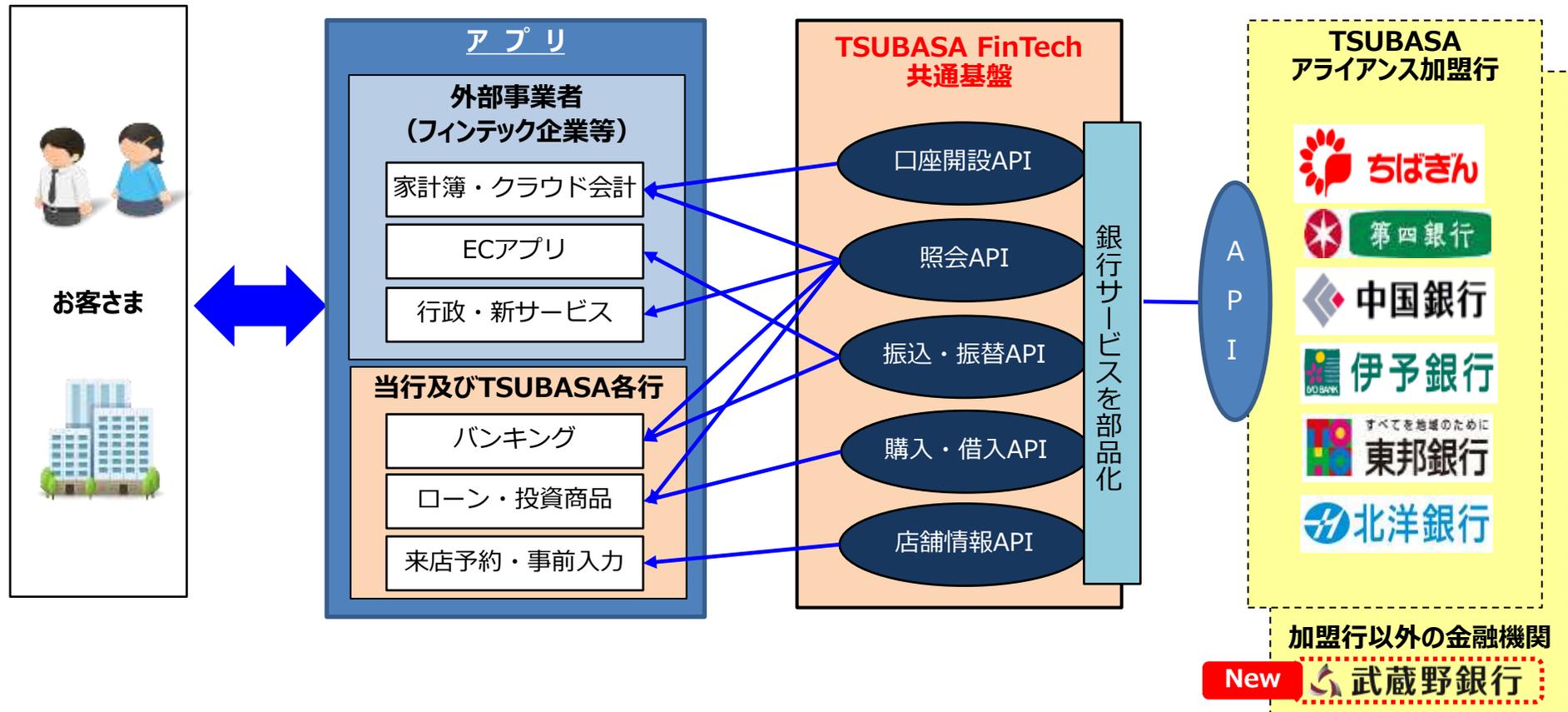
TSUBASA FinTech共通基盤の構築により、金融分野に限らず、様々な事業者間で価値のある情報連携が可能な**生態系（APIエコシステム）**の形成を目指す。

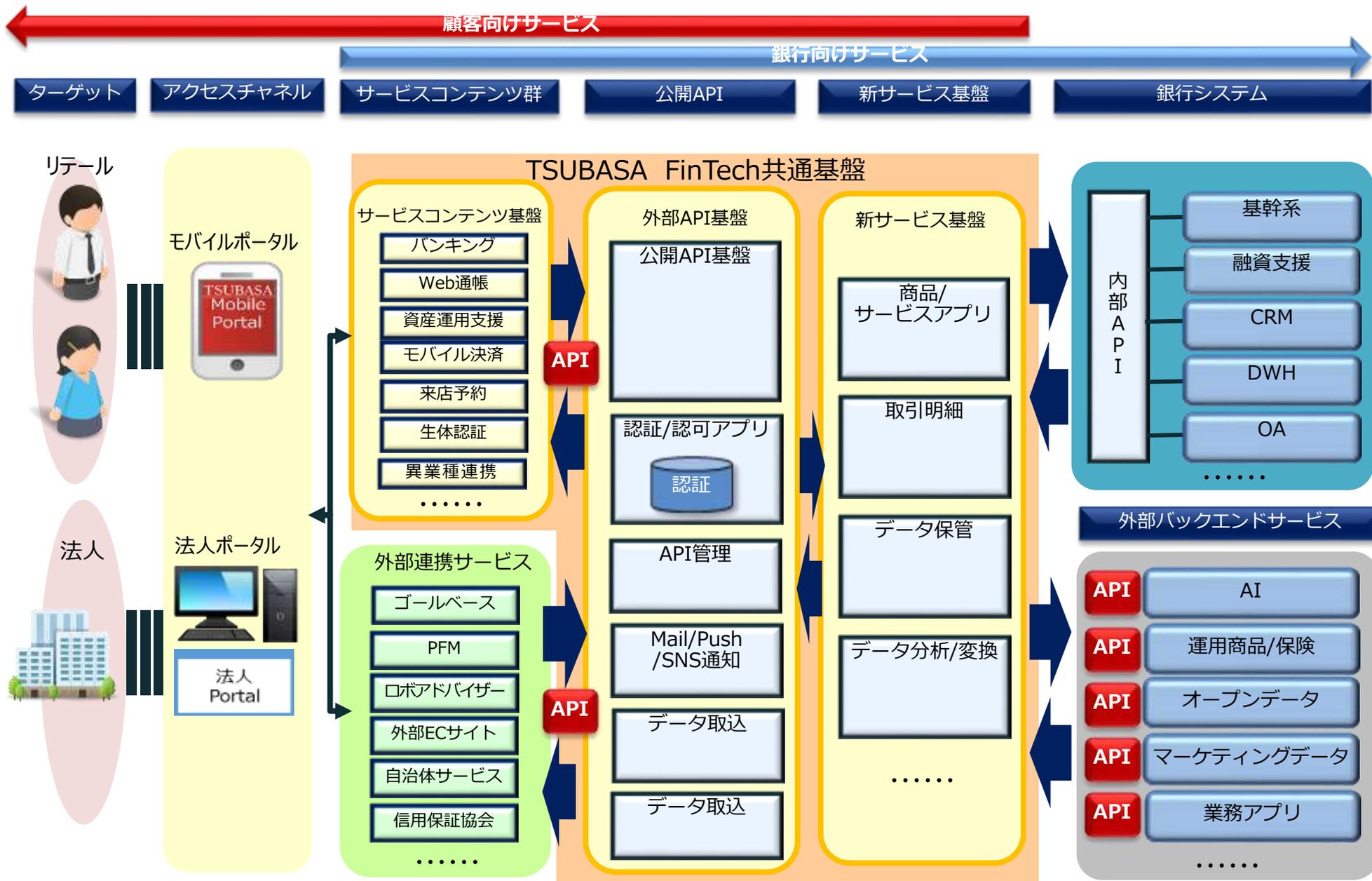


オープンAPIに対応した「TSUBASA FinTech共通基盤」の構築 ～2017年5月公表～

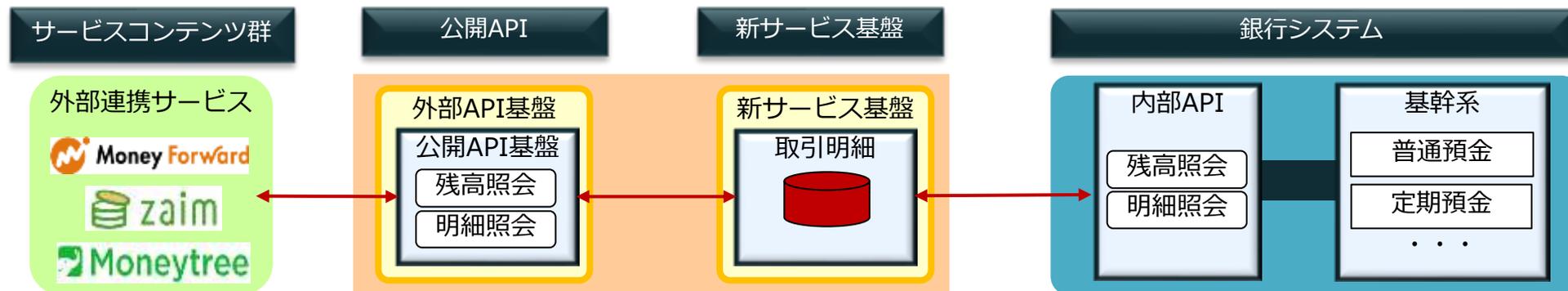
システム自由度が高いAPI共通基盤の構築

- API共通基盤を構築し、銀行法改正に伴う努力義務化への対応を行うとともに、外部企業との接続によるサービスの多様化や行内開発のスピードアップ・コスト削減を目指します。
- また、本共通基盤は、TSUBASAアライアンス加盟行のみならず、幅広い金融機関にご利用いただけるプラットフォーム化を図ります。





■ APIフローイメージ



■ PFM概要・画面イメージ

PFMとは、銀行、証券、クレジットカードなど、複数の口座情報を一元管理できるサービス（上記PFM事業者は家計簿機能も提供）。各行、国内の主要PFM事業者であるマネーフォワード、Zaim、マネーツリーと順次API連携していく予定



■ PFMとの連携目的・効果

1. ユーザーのセキュリティ向上

- ✓ ユーザーは、IBのパスワード等をPFM事業者に預ける必要がなくなり、安全にPFMアプリを利用することができます

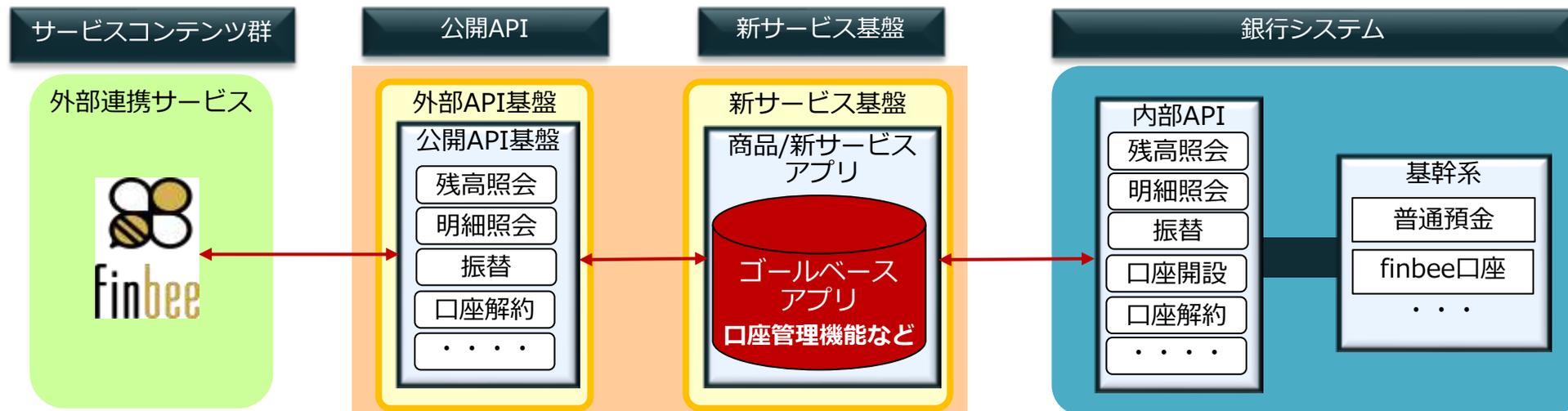
2. ユーザーの利便性向上

- ✓ API接続によりローン残高情報等の提供も可能となるため、PFMアプリ上で銀行口座全体の管理が可能となります

3. IBのコスト削減

- ✓ スクレイピングによるIBトランザクション・従量料金の削減が見込まれます

■ APIフローイメージ



■ finbee概要・画面イメージ

finbeeは、「自動車」「旅行」といった貯蓄の目的と目標金額等を設定し、おつり貯金や歩数に応じた貯金等、ライフスタイルに合わせて楽しみながら貯金できるサービス。TSUBASA行共同でAPI接続予定



■ finbeeの主な機能

1. 歩数に応じた貯金等、ルールに基づく「自動貯金」
2. 好きな時に簡単に貯金できる「手動貯金」
3. 銀行商品・サービス等のレコメンド

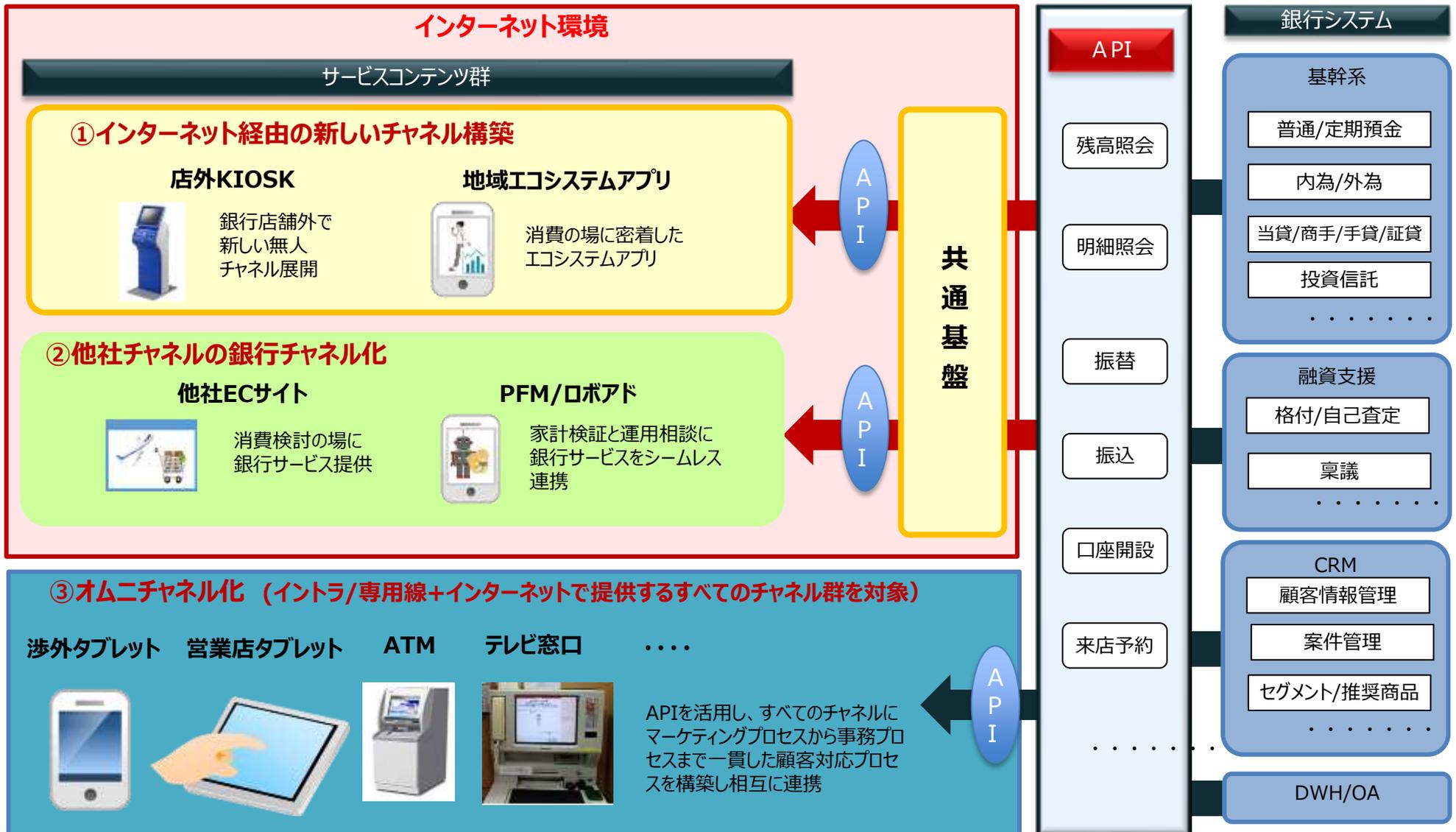
■ finbeeとの連携目的・効果

1. 資産形成層へのアプローチ強化
 - ✓ 顧客接点や若年層の裾野拡大
2. ユーザーデータ取得による高度なマーケティングの実現
 - ✓ 貯金（消費）目的や貯金達成状況等のユーザーデータを活用した、タイムリーなレコメンドが可能

- 各行から、APIユースケース検討会の開催に先立って提出されたアイデア総数は74。この中から優先度の高い24施策について、具体的に検討を進める予定。
- 主な次期ユースケースは下表のとおり。

案件名	概要	期待効果
PFM接続先の追加	API接続先としてZaim、マネーツリーを追加	顧客利便性向上、資産形成層へのアプローチ強化
デジタル通帳の開発	紙の通帳の代替	顧客利便性向上、通帳発行コスト削減
個人IB代替	既存の個人IB代替 + α	個人IB廃止による費用削減、新たな顧客体験の創出
決済関連等の外部事業者連携	Web口振・即時口振のAPI化を実現し、決済事業者や大手ECサイト等との連携	コスト削減、データ収集、収益機会拡大
会計ソフトとの連携	freee、マネーフォワード、弥生、TKC等の会計事業者との連携	顧客利便性向上、業務効率化、収益機会拡大、零細企業・中小企業へのアプローチ強化
行内事務処理のAPI化	「紙ベースでの申込 + 営業店システム打鍵」から「デジタル申込 + API連携・処理」に切替例) 口座開設、諸届、預り資産購入、ローン申込、基盤系商品等	業務効率化、クロスセル推進
生体認証機能の追加	更新系API（決済、他人口座への振込）に対応するため、追加認証として生体認証を導入	新決済ビジネスの認証手段提供、通帳・印鑑の廃止（本人確認のデジタル化）

TSUBASA FinTech共通基盤を活用し、インターネットチャネルの再構築を行うとともに、APIを活用して既存チャネルの改革を行い、オムニチャネル化の推進を目指します。





2018年4月16日

「TSUBASA FinTech共通基盤」による APIおよびフィンテックサービスの提供開始について

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）は、2018年4月23日（月）より、「TSUBASA FinTech共通基盤」によるAPI^{※1}およびフィンテックサービスの提供を開始します。

「TSUBASA FinTech共通基盤」は、「TSUBASAアライアンス」^{※2}参加行とT&Iイノベーションセンター株式会社（代表取締役 森本 昌雄）が共同で構築した、フィンテック企業等の外部事業者が同一の仕様で接続できるオープンAPIのプラットフォームとなっています。

この共通基盤をつうじ、お客さまに提供するフィンテックサービスの第一弾は、株式会社ネストエッグ（代表取締役社長 田村 栄仁）の自動貯金アプリ「finbee（フィンビー）」および株式会社マネーフォワード（代表取締役社長CEO 辻 庸介）の自動家計簿・資産管理サービス「マネーフォワード」・ビジネス向けクラウドサービス「MFクラウドシリーズ」です。なお、自動貯金アプリ「finbee（フィンビー）」とのAPI接続は地方銀行初となります。

API接続にあたっては、事前にご登録いただく「ちばぎんID^{※3}」によりお客さまの認証を行います。インターネットバンキング契約のないお客さまでも、口座情報を各種サービスと安全かつシームレスに連携することができるため、今後はより多くのお客さまにさまざまなフィンテックサービスをご利用いただけるようになります。

<TSUBASA FinTech共通基盤をつうじたフィンテックサービスご利用のイメージ>



※1 APIとは、Application Programming Interfaceの略。お客さまの同意に基づいて銀行等のシステムに外部から接続して安全に情報を取得できるようにする仕組みで、その仕様等をフィンテック企業等の外部事業者に公開することを「オープンAPI」といいます。

※2 千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、北越銀行の7行が参加する地銀広域連携の枠組みです。

※3 インターネットで提供されるサービスを共通のIDでご利用いただくための仕組みです。

以上



2018年3月16日

武蔵野銀行及びT&Iイノベーションセンター株式会社との API活用に関する業務提携について ～「千葉・武蔵野アライアンス」提携施策～

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）と武蔵野銀行（頭取 加藤 喜久雄）は、「千葉・武蔵野アライアンス」に基づく提携施策として、2018年3月15日（木）、T&Iイノベーションセンター株式会社（代表取締役 森本 昌雄、以下「T&I」）とAPI活用に関する業務提携について合意しました。

現在、T&Iが開発を進めているAPI基盤「TSUBASA FinTech共通基盤」は、「TSUBASA金融システム高度化アライアンス」[※]加盟行以外の金融機関にも幅広くご利用いただけるプラットフォームとなっており、今回の業務提携がその初めてのケースとなります。

今回の業務提携では、フィンテック企業との連携など「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用した新たなサービスの提供に向け相互に協力していくとともに、それぞれが有する知見・人材を集結・活用し、さらなる銀行業務の革新および顧客利便性の向上を目指してまいります。具体的な業務提携の範囲は下記のとおりです。

記

- 「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用したユースケースの検討
- 「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用した新サービスの開発
- 「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用するためのノウハウ・情報の共有、技術支援

※フィンテックをはじめ先進的なIT技術を調査・研究するために発足した枠組みで、現在、千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行の6行が加盟しています。

以上

End of file

免責事項

本資料は作成時点において入手可能な情報に基づき掲載しており、不確実性が内在しております。また、本資料に記載されている当行以外の企業がかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。